

指伝話文字盤 1-2-3!



2024年9月版



人と人とを笑顔で結ぶ ゆい
有限会社オフィス結アジア

〒251-0012 神奈川県 藤沢市 村岡東 3 -12 -10

電子メール info@yubidenwa.jp Tel. 0466-21-7448

ホームページ <https://www.yubidenwa.jp/> Fax. 0466-21-7996



指伝話文字盤1-2-3! (2024.9)

© 2024. Office Yui Asia Limited. All rights reserved. <https://www.yubidenwa.jp/>

指伝話 Yubidenwa は、有限会社オフィス結アジアの登録商標です。Apple、Appleのロゴ、iPhone、iPod touch、iPad、iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。この冊子に記載されたその他の製品名および企業名は、各社の商標です

最新版はウェブで

コミュニケーションアプリ 指伝話文字盤は、神経難病等で身体が自由に動かせず自分の声で話をするのも難しい方たちが使っている透明文字盤によるコミュニケーションをiPad上で行うことを目指して開発されました。

透明文字盤と同じように介助者との対面での利用方法だけでなく、画面タップ、キーボードやスイッチでの操作、また、iPadの標準のアクセシビリティ機能であるスイッチコントロールによる操作でも使えるように、バージョンアップをしてきました。

最新バージョンでは、iPadの標準機能のショートカットを呼び出す機能が実装され、文字盤で選択した文章を使ったさまざまな操作ができる機能を広げました。

姉妹製品である指伝話メモリと組み合わせて使うことにより、コミュニケーション手段の選択肢をさらに広げていただくことができます。

使い方はあなた次第！ 「余白」のあるアプリ、それが指伝話です。

指伝話が、すべての人にとって大切な「コミュニケーション」のお手伝いとなり、笑顔のきっかけとなりますよう願っています。

目次

目次	1
アプリの特長	2
アプリ開発の背景	2
さまざまな使い方・使い道	3
各部の名称と機能	4
環境設定	5
対面による操作での使い方	11
画面タップでの使い方	12
キーボードやスイッチを使った操作	12
スイッチコントロールによる操作	14
URL呼び出し	16
ショートカットのサンプル	17
指伝話文字盤のURL Scheme	23

アプリの特長

- ・簡単な操作で使える文字盤です。気軽にコミュニケーションを取りやすくなります。
- ・対話式で使う、指差しで使う、口文字を併用して使う、いずれにも適しています。
- ・介助なしでスイッチを使って操作することもできます。
- ・話したことばは、クリップボードに保存されるので他のアプリで利用可能です。
- ・URL呼び出し機能で、ショートカットを呼び出し、さまざまな処理を行うことができます。
- ・Wi-Fiなど通信環境は不要です。（SMS送信など行う場合は必要）
- ・iPadだから、暗いところでも使えます。
- ・音声でお知らせするから画面を見なくても操作できます。
- ・iPhoneの小さい画面でも操作できます。



指伝話文字盤の画面

アプリ開発の背景

必要なことばだけでなく、おしゃべりも楽しんでいただくために、お話しする人も介助する方も負担が少なくすむアプリとなるように心がけて開発をしました。

一般的に、お話しする人が機器の操作をすることが難しい場合、透明文字盤や紙の文字盤を使うことが多いです。透明文字盤はコツを掴めば難しくないので、お話しする人と介助する人の阿吽の呼吸が必要ですし、視線による指示の読み取りは最初は難しく感じてしまい使用を断念するケースも多いようです。

また、介助する人が文字盤を持ちながらお話しする人の合図に集中をしつつ、それまでに話したことばといま話していることばとを記憶しながら使うのは、かなりの気力と体力が必要かもしれません。

透明文字盤や口文字に慣れるまでに断念してしまう人を減らして、コミュニケーションの機会を多くしたいと思い開発したアプリです。

さまざまな使い方・使い道

適した使い方がきっとあります

指伝話文字盤はシンプルなアプリですが、さまざまな使い方ができるようになっています。

透明文字盤を使う時や口文字で伝達する時のように、お話しする人と介助者が対話型で使うことができます。画面をタップして使う方法や外部キーボードを使う方法もあります。また、お話しする人が身体のわずかな動きを使ってスイッチで操作することもできるようになっています。

スイッチでの操作は、OSのスイッチコントロール機能を使う方法と使わない方法がありますし、それぞれにおいて、指伝話文字盤の設定とスイッチコントロールの設定の組み合わせによって、使い方や使い勝手が異なります。

スイッチを1つだけ使うか複数使うかによっても、使い方が変わります。さらにスイッチ自体にもいろいろな種類がありますし、それぞれの設定の方法も異なります。

これらは、設定が大変ということではなく、きっとお使いになる方に適した方法が見つかると考えてください。

使い道もいろいろあります

指伝話文字盤は、基本は五十音表から文字を選択して文章を作り、それを発話して使うアプリです。

「ショートカット」アプリとの連動をすることで、目の前にいる人に伝えるだけでなく、作った文章を保存したり、メッセージやLINEで家族に送ったりする使い方でもできます。

五十音表で文字を選択して読み上げて伝えるという簡単なアプリとして使い始めていただき、だんだんできることを増やしていくための「**使い方のネタ**」がいろいろと用意されています。

是非楽しんで使ってください。

指伝話メモリとの連携

指伝話文字盤をスイッチコントロールでお使いになるのであれば、是非、指伝話メモリとの併用をご検討ください。

指伝話メモリは、カード形式の表示の画面で、スイッチ操作では特に使いやすいです。指伝話文字盤でも、アクションボタンを押して、入力した文章をメッセージで送るなどの操作をすることができますが、指伝話メモリではカードを1枚選択することで更にいろいろなことができる仕組みがあります。

指伝話文字盤のアクションで指伝話メモリを呼び出すよう設定すれば、開いた指伝話メモリ側で様々な操作がしやすくなります。

各部の名称と機能

矢印ボタン

文字盤の選択場所を移動させるためのボタンです。

長押しをすると一つ前に戻ります。

モードによって動作と表示が異なります。詳しくは各モードの説明をご覧ください。

環境設定（指伝話文字盤）ボタン

環境設定画面を開きます。画面のボタンの位置や、ことばの読み上げ方法などの設定を行います。

表示エリア

確定した文字を表示します。

決定ボタン

五十音表の選択状態を確定させるためのボタンです。

話すボタン

表示エリアにあることばを、音声で読み上げます。

音声の音程・速度・音量は環境設定で変更できます。

話したテキストはクリップボードにコピーされます。

消しゴムボタン

表示エリアの内容を消します。

消した後にはアイコンが鉛筆マークになり、タップすると消した内容が戻ります。

チャイムボタン

タップするとチャイムを鳴らします。

チャイムの種類と繰り返し回数は環境設定で指定します。

チャイムが鳴っている時にタップするとチャイムが止まります。

設定で機能をURL呼び出しボタンに変更すると魔法の杖ボタンになります。



五十音表

各文字はボタンになっていて、選択した文字を表示エリアに追加します。

タップした時に発話するかしないかは環境設定で指定します。

「空」：空白を入れます。文章の区切りの句読点として使ってください。読み上げの際に考慮されます。

「削」：前の文字を削除します。

「ゝ」：前の文字に濁点をつけます。

「°小」：前の文字に応じて半濁点をつけるか小さい文字にします。

「ー」：前の文字をのばします。（長音）

環境設定

環境設定ボタン（指伝話文字盤のアイコン）をタップすると、環境設定画面が開きます。操作パネルの位置やことばの読み上げ方法などの設定を行います。

元の画面に戻るには、画面左上の「戻る」をタップします。



各設定項目とその内容は次の通りです。

文字盤表示

操作ボタンを右に表示する

この設定がオンの場合は操作ボタンは右側に、オフの場合は左側に表示されます。

「あ行」を右側に表示する

この設定がオンの場合は五十音表のあ行は右側に、オフの場合は左側の表示となります。



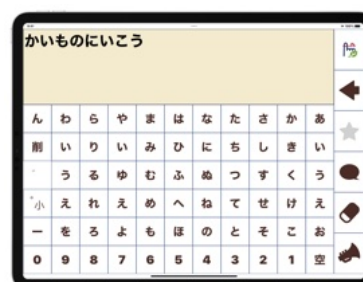
初期状態



あ行を右側に表示



操作ボタンを右に表示



あ行を右側・操作ボタンを右側に表示

読み上げ

選択候補を読む

この設定がオンの場合は、五十音表で選択した文字を決定して表示エリアに移動する際に、その文字を読み上げます。

行（段）移動時に読み上げる

この設定がオンの場合は、選択候補が変わる時に行（または段）の先頭の文字を読み上げます。

スキャン方法

手動スキャン

矢印ボタンで選択場所を移動し、決定ボタンで選択を確定します。

半自動スキャン

矢印ボタンで選択場所の移動を開始します。矢印ボタンまたは決定ボタンで選択を確定します。選択場所の移動は自動で移りますが、決定をする度に止まり、矢印ボタンで再開します。

自動スキャン

矢印ボタンで選択場所の移動を開始します。矢印ボタンまたは決定ボタンで選択を確定します。選択場所の移動は自動で移り、「スキャン繰り返し回数」で指定した回数までスキャンを繰り返します。

スキャン設定

先に段をスキャンする

この設定がオンの場合は、段（あ・い・う・え・お）を先にスキャンします。オフの場合は、行（あ・か・さ・た・な…）を先にスキャンします。

スキャン繰り返しの回数

自動スキャンを使用する場合、スキャンが止まるまでの繰り返しの回数を指定します。

自動スキャンの進む速度

自動スキャンを使用する場合、スキャンが進む速度を0.1秒から3秒までの0.1秒刻み、3秒から10秒までの1秒刻みで指定します。読み上げを指定している場合は、読み上げを終えてから移動しますので、速度を速く設定しても、指定した速度で読み上げが進まなくなることがあります。自動スキャンの進む速度を遅くするか、読み上げ速度を速くするかして、調整してください。

その他

文字盤の色

文字盤の色を「空・海・森・野原・大地・いちご」の6種類の中から選択します。



空



海



森



野原



大地



いちご

指伝話文字盤の文字盤表示はOSのダークモード指定をしても表示は変わりません。白黒反転表示で使いたい場合は、「設定 > アクセシビリティ > Appごとの設定」で指伝話文字盤を追加し「反転（スマート）」を「オン」にする方法が有効です。



空



海



森



野原



大地



いちご

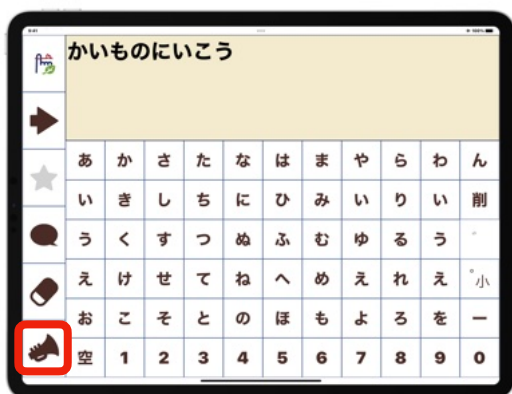
ユーティリティ

機能

操作パネルの一番下のボタンの機能を、「チャイム」か「URL呼び出し」にするかを選択します。選択した内容によって、アイコンが変わります。

機能を「チャイム」にした場合、ボタンをタップすると「チャイム」で指定したチャイムが「チャイム再生繰り返し回数」で指定した回数鳴ります。

機能を「URL呼び出し」にした場合、ボタンをタップすると「URL」で指定したURLを呼び出します。「URL呼び出しの活用方法」の項を参照してください。



チャイムのアイコン



URL呼び出しのアイコン

チャイム

機能を「チャイム」にした時に鳴らすチャイムの種類を「つぼみ・どんぐり・こだま・そよかぜ・月・しずく」の6種類から選択します。

チャイム再生繰り返し回数

機能を「チャイム」にした時に鳴らすチャイムの再生回数を「止めるまで・1～5・10・20回」の中から選択します。なお、再生中に他の操作をするとチャイムは停止します。

URL

機能を「URL呼び出し」にした時に呼び出すURLを指定します。

音量・速度・音程

それぞれ、スライダーで指定します。

話す人

「話す」ボタンをタップした時に読み上げる話者を「SAYAKA・RYO」のいずれかを選択します。「試しに話す」をタップすると、指定した音量・速度・音程・話す人で例文「いつもありがとうございます」を読み上げます。

アクセシビリティ

50音ボタンにもフォーカスを当てる

この設定は、① スイッチコントロールの項目モード、② 視線入力装置などポインティングデバイスで「項目にスナップ」に対応したデバイスの利用時に有効です。

スイッチコントロールの場合、この設定がオンになっていると、項目モードのスクリーンが五十音表に対しても行われるようになります。この設定がオフの場合には、スイッチコントロールを使用する場合にはガイドカーソルモードでの利用が使い易いですが、項目モードでの利用も可能になります。



スイッチコントロールの項目モードでの利用

また、視線入力装置などポインティングデバイスを使用する場合、そのデバイスが「項目にスナップ」の設定に対応している場合に、五十音表の文字にフォーカスを当てるできるようになります。



ポインティングデバイスの設定画面



項目にスナップをオフの状態



項目にスナップをオンの状態

設定ボタンを無効にする

設定画面は、画面上の指伝話文字盤のアイコンをタップして開く設定画面で行いますが、意図せず設定画面を開いてしまわないように設定ボタンを無効にすることができます。スイッチコントロールで操作する人、操作方法が定まっている人に便利な機能です。



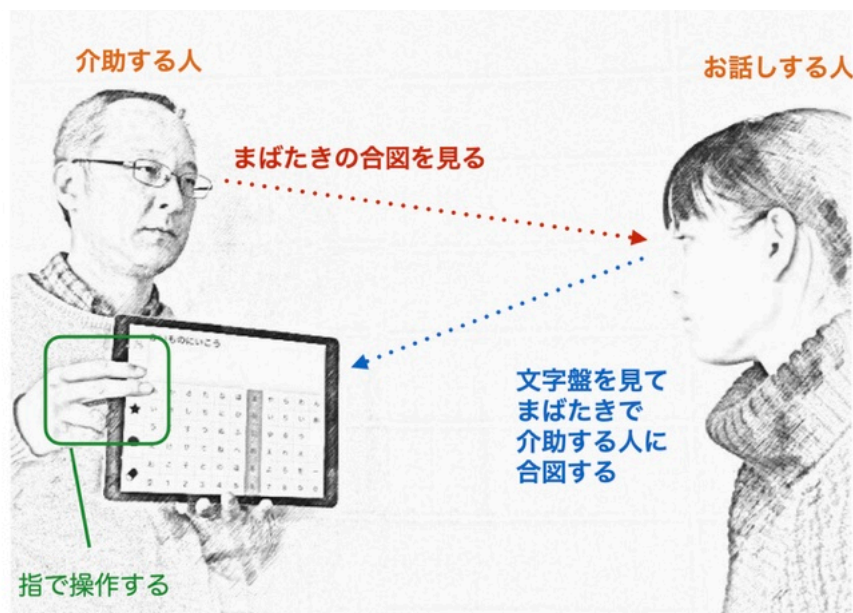
「設定アプリ > 指伝話文字盤」を開き、「設定ボタンを無効にする」を「オン」にします。アプリを再起動後は、設定ボタンをタップしても設定画面が開かなくなります。

再び設定を有効にするには、「設定アプリ > 指伝話文字盤」を開き、「設定ボタンを無効にする」を「オフ」にして、アプリを再起動してください。



対面による操作での使い方

お話しをする人と介助する人がペアになって操作します。介助する人が指伝話文字盤を操作し、お話しする人の目（指や足でもよい）の動きで合図を読み取ります。



はじめに決めること

最初に、「はい」と「いいえ」の合図を決めます。例えば、「はい」はまばたきを2回する、「いいえ」は目を閉じたままにする、というような感じです。2つの合図を使い分けるのが難しかったら、「はい」だけでも決めておくようにします。

最初は試行錯誤して、使いやすい方法を見つけることになっていきますが、慣れてルールが決まってきたら、他の人とも共有して、対応する人によってやり方が異なって戸惑うことがないようにすると良いです。

操作の手順

介助する人は、矢印ボタンをタップして反転を進めていきます。お話しする人は、自分が選択した場所に反転がきた時に合図をして伝えます。この方式で、行・列を選択して文字を選択し、文章を作っていきます。

矢印ボタンをタップして反転を進めるのを等間隔で行うことと、選びやすい速度で行うことがコツです。手動スキャンで矢印ボタンを等間隔で押すのが難しいようでしたら、半自動スキャンか自動スキャンを使用すると良いです。自動スキャンは、途中の休みなしに選択する操作が続きます。慣れるとそれが良いのですが、慣れるまでは途中で休憩したいと思うこともあります。半自動スキャンにして都度休みを入れる方法も試してみてください。また、自動スキャン・半自動スキャンの場合のスキャンの間隔は設定画面で指定します。

選択されたことばは、表示エリアに残るので、介助する人もお話しする人も、どこまで話したかを覚えていなくても見ればわかるので安心です。

行から選択するか列から選択するか、音声を発するか黙って動かすか、あ行を右からにするか左からにするか、操作パネルを右側に表示するか左側に表示するかなど、環境設定で決めることができます。

使い方の工夫

文字の選び方に決まりはなく、どのように使っていただいても結構です。これまでにユーザの方々が工夫されていた使い方をご紹介します。

間違った選択は無視して続ける

文字を1つずつ選ぶのはスイッチ操作だと結構大変です。間違っ隣りの文字を選択してしまった時は、削除ボタンで消すのではなく、そのまま無視して正しい文字を次に選ぶようにするというルールにしておくのも一つの方法です。

行・段の順番で選ぶ方法をしている時は、行を間違っ選んだ時には、一番下の数字を選ぶことにして、後で数字は読み飛ばしてもらおう、というルールにしておくのも一つの方法です。

完璧に文章を作りたい方もいると思いますが、文字盤の役割はできるだけ簡単に用事を伝えることに特化しているので、自分たちで使いやすく伝えやすいルールを作るのも良いと思います。

数字を選んで伝える

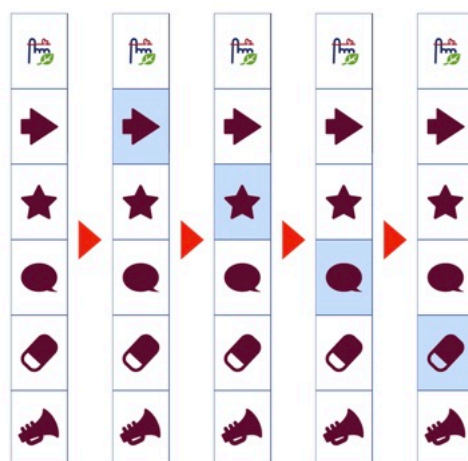
よく使うフレーズは、数字を選ぶことで伝えるルールを作っておくのも一つの方法です。

「1：吸引をしてください」「2：痛い」「3：トイレ」といったように決めておき、数字を選ぶことで早く用事を伝えることができます。「2：痛い」を選んだ時は、次に場所を特定するために、「頭・顔・首・肩・腕・胸・お腹・背中・・・」と順番に聞き、伝えたい場所の時に合図をしてもらうことを決めておきます。また、場所を聞く際は常に同じ順番で聞くことを事前に約束しておき、そこから選んでもらうようにします。

例えば「目が痛い」を伝えるには、「まず顔を選んだら、順番に顔の中の場所を聞いてくれる」とルールが分かれば安心して順番に伝えることができます。文字盤を使わなくてもウイंकや瞬きの合図で「はい」を伝えても良いでしょう。

画面タップでの使い方

指やスタイラスペンを使って、五十音表をタップして文字を入力したり、操作ボタンをタップして使うこともできます。マウスやトラックパッドを使った操作も可能です。



キーボードやスイッチを使った操作

指伝話文字盤は、画面をタップして操作する以外に、iPadに接続したキーボードやスイッチを使って操作することができます。

キーボードは、有線・無線による接続の各種製品が各社から発売されています。指伝話文字盤では、「1～5の数字キー」か、「左右の矢印キー」を使って操作する方法があります。数字キーを使う場合は、1～5をすべて使う方法もありますし、1だけを使う方法もあります。

スイッチは、ボタン式で指や足などで押して操作するもの他に、身体のわずかな動きを感知して使うセンサータイプのものなど、様々なものが販売されています。

iPadとスイッチは、一般的には「スイッチ接続デバイス」と呼ばれるアダプタを使って接続しますが、Bluetooth接続のスイッチでアダプタが不要な製品もあります。いずれにしても、スイッチ



を操作すると何らかの信号がiPadに送られることになるのですが、その信号はキーボードを接続して送られる信号と同じ種類なので、スイッチ操作とキーボード操作は、同じ仕組みです。

スイッチ接続デバイスについて

iPadとスイッチを接続するスイッチ接続デバイスは、各社から発売されています。デバイスごとに、スイッチ操作によってiPadに送られる信号の中身は異なります。

一般的には、スイッチを操作した信号をiPadが受け取れる1つのキーの情報に変換し送信するのがスイッチ接続デバイスの役割です。OSのスイッチコントロールの機能を使う場合には、送信された信号に役割を与えて使用するので、信号の中身そのものは何であっても構いません。しかし、スイッチコントロールを使用せず、送信されるキーの内容をそのまま使う方法の場合には、スイッチ接続デバイスでスイッチ操作が何のキーに変換されるかが重要となります。

オフィス結アジアで発売している「スイッチ接続キット（設定済みの変わる君）」は、指伝話文字盤に適したキーの内容を送信しています。また、スイッチの操作は1つであっても、そのスイッチの押し方によって複数のキー信号を送り分けることができる仕組みがあります。短押しと長押しを使い分けたり、短押しと長押しの組み合わせの押し方を活用した「パターン入力」ができるなら、1つのスイッチで複数の操作を使い分けられるようになります。

身体の動きに合わせて使いやすい設定をすれば、操作の仕方も変わってきます。1つのスイッチしか使えないから操作は1つと決めつけず、より良い方法を検討してください。

数字キーによる操作

指伝話文字盤の操作ボタンには、数字キーの1～5が割り当てられています。OSのスイッチコントロールを使用せず、キー操作で指伝話文字盤を使用することができます。

なお、スキャンには、自動・半自動・手動の3種類がありますので、どのモードを使うかによっても、操作の仕方が変わります。

スイッチによる操作をする場合は、変わる君の設定をすることで、2つのスイッチにそれぞれ1キーと2キーを割り当てることができますし（「ボタン・ボタン」と呼んでいる設定）、スイッチを3個以上使うのであれば、複数の変わる君をUSBハブで接続し、それぞれ割り当てるキーを設定しておくことができます。

矢印キーによる操作

指伝話文字盤を、左右の矢印キー（←と→）を使って行う方法があります。操作ボタンに色をつけ選択できるようにする操作と、そのボタンをタップする操作を行います。

左矢印（←）キーは、操作ボタンの矢印ボタン・決定ボタン・話すボタン・消しゴムボタンの4つを順番に選択していきます。選択している場所はボタンに色がつきます。

右矢印（→）キーは、選択されている場所をタップする操作となります。

なお、スキャンには、自動・半自動・手動の3種類がありますので、どのモードを使うかによっても、操作の仕方が変わります。

スイッチ接続デバイスに「変わる君」を使う場合、スイッチを2つ接続するのであれば、ジャック1と2にそれぞれ左矢印と右矢印を割り当てておく方法があります。スイッチを1つだけ接続するのであれば、変わる君をパターン入力にして、短押しと長押しで使い分けて、短押しは右矢印、長押しは左矢印に割り当てると良いです。長押しができなくても短押しを回数で押し分けすることができれば、短押し1回は右矢印、短押し2回は左矢印にして使うと良いです。

スイッチコントロールによる操作

スイッチコントロールを使用して指伝話文字盤を使用することができます。他のアプリを使用せず指伝話文字盤だけを使うのであれば、スイッチコントロールを使用しない方法（「キーボードやスイッチを使った操作」の項を参照）の方がわかりやすいと思います。しかし、いまは指伝話文字盤だけしか使わないと思っていても、他にも便利なことがあるなら使ってみたいということになると思います。その場合にはスイッチコントロールの操作ができれば、ほぼすべてのiPadの操作ができるようになりますので、スイッチコントロールとともに使うことには大きな価値があります。

スイッチコントロールには、さまざまな設定がありますし、使うスイッチの数や操作の仕方によって使い勝手は大きく変わります。いくつかの使い方の例をご紹介します。

グライドカーソルでの操作

グライドカーソルで選択モードをシングルにし、スイッチのアクションを「タップ」にすれば、2回のスイッチ操作で画面上の五十音表および操作ボタンをタップすることができます。グライドカーソルの速度を調整すると、操作がよりし易くなります。

選択モードを微調整にすれば、グライドカーソルが見やすくなりますが、1回の操作でのスイッチ操作が4回となります。

他のアプリを呼び出すなど、他の機能はハイライトメニューを通して行うこととなります。その場合、スイッチコントロールの設定で、スイッチのアクションを「タップ」から「項目を選択」に変更するか、タップの動作を「自動タップ」にすることなどの方法があります。詳しくはスイッチコントロールの説明書をご覧ください。



項目モードでの操作

指伝話文字盤を項目モードで使用する場合、初期設定値ではカーソルのスキャンは指伝話文字盤の操作ボタンのところだけをスキャンします。設定ページで「50音ボタンにもフォーカスを当てる」をオンにすると、五十音表の文字にもカーソルが移動するようになります。

五十音表の文字にカーソルを移動させる設定であれば、自動ハイライトでの利用がし易くなります。

五十音表の文字にカーソルを移動させない場合、手動ハイライトを使うのであれば、操作パネルだけを使って文字入力ができますが、自動ハイライトを使うのであれば、ハイライトの時間等の調整を行なった上でなければ難しいかもしれません。指伝話文字盤の時だけグライドカーソルモードに切り替えて使うか、スイッチ操作で矢印ボタンのタップを行うレシピを作成して使用してください。

レシピを使う場合は、レシピモードの終了の設定が課題になります。1スイッチで操作する場合、長押しを使う場合は長押しをレシピ終了にする方法があります。短押しだけで操作するのであればタイムアウトの設定によってレシピモードを終了する方法があります。

スイッチコントロールのスイッチ操作で矢印ボタンのタップを行うレシピを作る手順

- ① 指伝話文字盤を開き、矢印ボタンの画面上での位置を覚えておきます。
レシピを使ってタップする場所になります。付箋をつけておくと覚えやすいです。
- ② 「設定 > アクセシビリティ > スイッチコントロール > レシピ」を開き「新規レシピを作成」をタップします。
- ③ 「スイッチを割り当てる」をタップし、使用するスイッチを選択します。
- ④ 「カスタムジェスチャ」をタップします。
- ⑤ 「コントロールを非表示」をタップします。
- ⑥ 矢印ボタンの位置を一度タップして、コントロールが表示されたら「保存」をタップします。
- ⑦ レシピに「文字盤」と名前をつけます。
- ⑧ 「タイムアウト」をオンにし、任意の秒数を設定します。
この秒数の間、画面操作がない時にレシピモードが終了するようになります。

URL呼び出し

URL呼び出し機能とは？

設定画面のユーティリティの設定で、「機能」は「チャイム」と「URL呼び出し」の2種類から選ぶことができます。操作ボタンの一番下のアイコンを選んだ時の動作を指定します。指定した内容で、アイコンが変わります。

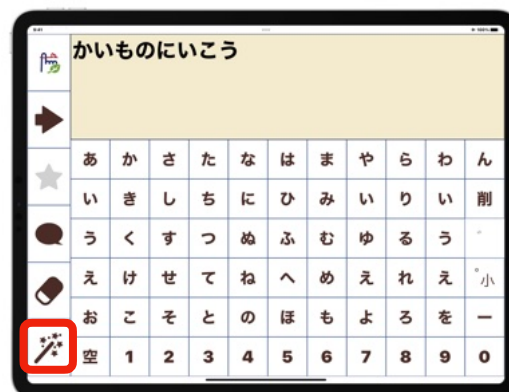
「URL呼び出し」はバージョン1.4で追加された機能です。

ユーティリティ	
機能	URL呼び出し >
チャイム	月 >
チャイム再生繰り返し回数	2回 >
URL	Shortcuts://run-shortcut?name=アプリ選択

設定画面での指定



チャイムのアイコン



URL呼び出しのアイコン（魔法の杖）

「URL呼び出し」を選択した時は、魔法の杖アイコンをタップすると、設定画面で指定したURLを呼び出します。

指定するURLには、**ウェブサイトのURL**や**URLスキーム**を指定することができます。URLスキームは、アプリの開発者から提供されるそのアプリを呼び出すための記述の仕方です。

例えば、「https://www.yubidenwa.jp/」と書いてあると、指伝話のホームページをSafariで開きます。「yubidenwamemory:」と書いてあれば、指伝話メモリが開きます。「sms:」と書いてあれば、メッセージアプリが開きます。

ショートカットの呼び出し方

便利な使い方の一つに、ショートカットアプリで作成したショートカットを呼び出す使い方があります。

`shortcuts://run-shortcut?name=ショートカット名`

「ショートカット名」のところに、呼び出すショートカット名を書きます。

ショートカットの利用

指伝話文字盤は、発話した文章はクリップボードに保存します。この機能を使って、ショートカットを呼び出した時に、ショートカットの中でクリップボードの内容を参照して利用することができます。

ショートカットのサンプル

指伝話文字盤からURL呼び出しで利用するショートカットのサンプルを公開しています。

<https://www.yubidenwa.jp/mojiban/>

指伝話文字盤からショートカットを呼び出すには、指伝話文字盤の設定画面で、「機能」を「URL呼び出し」にした上で、「URL」欄に呼び出し方法を記載します。

呼び出し方法は、各サンプルの説明箇所に記載していますので、参考にしてください。

指伝話文字盤からメッセージを送る

機能：

指定した宛先に、指伝話文字盤で発話した文章をメッセージ送信します。

解説：

指伝話文字盤は、その場にいる相手に向かって話を伝えるのが一般的な使い方ですが、この機能は、離れた場所にいる相手に向かってメッセージを送って伝えるという使い方です。

指伝話文字盤は発話した文章をクリップボードに保存する機能があり、ショートカットの中でその内容をメッセージで送る処理をしています。

送信先のアドレスは、ショートカットの中で指定します。ショートカットを端末間で同期している場合、指伝話文字盤の使用者のiPadとは別のiPadのショートカットを編集することで、送信先のアドレスを変更することができる点が便利です。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=指伝話文字盤からメッセージを送る`



指伝話文字盤メッセージ

機能：

指定した宛先に、指伝話文字盤で発話した文章をメッセージ送信します。

解説：

指伝話文字盤は発話した文章をクリップボードに保存する機能があり、ショートカットの中でその内容をメッセージで送る処理をしています。

指伝話文字盤からショートカットを呼び出す指定を設定画面で行う際に、送信先のアドレスを指定しておきます。

送信先のアドレスは、指伝話文字盤の設定画面で呼び出すショートカットを指定する場所で記載します。前述の「指伝話文字盤からメッセージを送る」ショートカットは宛先をショートカットで指定するのでショートカットを編集する必要がありましたが、この方式ではショートカットの編集は不要です。

複数の宛先を使い分けたい場合は、後述の別な方法があります。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=指伝話文字盤メッセージ&input=宛先`



指伝話ペーストボードメッセージ

機能：

指定した宛先名に、指伝話文字盤で発話した文章をメッセージ送信します。

解説：

前述の「指伝話文字盤メッセージ」との違いは、呼び出す時に宛先のアドレスを指定するのではなく、名称で指定する点です。

指伝話コミュニケーションパックでは、メッセージの宛先を「指伝話メッセージ_C」という設定用ショートカットに登録しておくことで、宛先をわかりやすい名称で指定することができる仕組みがあります。この「指伝話ペーストボードメッセージ」は、その設定を利用する作りになっています。

「指伝話メッセージ_C」に登録があれば、送信先のアドレスが変更になった時でも指伝話文字盤側でアドレスを打ち替えることなく使うことができます。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=指伝話ペーストモードメッセージ`



指伝話メモリ

機能：

指伝話メモリアプリを開きます。

解説：

指伝話文字盤と指伝話メモリとの間を行き来する時に便利です。前出サンプルのアプリ呼び出しやベッドを操作する機能は、指伝話メモリのカードで作成するとスイッチコントロールによる操作もし易いですし、複数の選択肢から選ぶことがし易くなります。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=指伝話メモリ`



ホーム

機能：

iPadのホーム画面に移動します。

解説：

指伝話文字盤から簡単にホーム画面に移動できます。スイッチコントロールを使用している場合、ホーム画面に移動するには通常はハイライトメニューを表示してホームを選択することになりますが、この方式であれば簡単操作でホーム画面に移動することができるようになります。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=ホーム`



ベッドを操作する

機能：

パラマウントベッド社の楽匠プラスを操作するアプリ「ベッド操作」を呼び出します。

なお、クオラONEも同じアプリでの操作が可能です。

解説：

ベッド操作アプリは独立したアプリですが、そのアプリで設定をすると、アプリ画面上にショートカットを実行するボタンを表示することができるようになっています。つまり、ベッド操作アプリから指伝話文字盤にも戻ってくることができます。ホーム画面を経由したり、スイッチコントロールでハイライトメニューを表示するといった手順を踏まずに、アプリ間を行ったり来たりすることができます。

指伝話メモリと一緒に使うと、さらにスイッチ操作でも選択しやすい画面を用意することができます。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=ベッドを操作する`



ベッド操作アプリ

アプリ選択

機能：

呼び出すと、図のような選択肢のダイアログが表示されます。使用したいアプリを選択すると、そのアプリが開きます。

解説：

前出の「ベッドを操作する」ショートカットの場合は特定のアプリを1つ起動しますが、この方式であればいくつかのアプリの中から選ぶことができます。

最後の「(検索)」を選択した時は、指伝話文字盤で発話した文章をネットで検索した結果を開くようになっています。指伝話文字盤は発話した文章をクリップボードに保存する機能があり、ショートカットの中でその内容を得てネット検索をするようにしています。

このサンプルは、アプリを呼び出すことを主にしていますが、最後の検索の使い方のように、指伝話文字盤で発話した内容を使って別な操作を行うこともできる可能性を持っています。指伝話文字盤からショートカットにクリップボードで情報を渡す機能をご活用ください。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=アプリ選択`



表示されるダイアログ (例)

指伝話文字盤アクション

機能：

呼び出すと、図のような選択肢のダイアログが表示されます。実行したいアクションを選択すると、処理が実行されます。

解説：

前出の「アプリ選択」と基本的な作りは同じものですが、さまざまなアクションが実行できることを示すためのサンプルです。

指伝話文字盤は発話した文章をクリップボードに保存する機能があり、ショートカットの中でその内容を使ってアクション（処理）を行っています。

4番目と5番目はサンプルでは空欄になっているのはサンプルで表示をしているからです。例えば前出の「指伝話文字盤メッセージ」ショートカットの機能を拡張し、宛先を指定する代わりにダイアログに表示される名前を選んでメッセージを送るといった操作にすることが可能です。

スイッチコントロールで操作する場合は、指伝話メモリを使いカードで宛先を選択することができるようにすると、なお使い易くなります。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=指伝話文字盤アクション`



表示されるダイアログ (例)

指伝話文字盤コマンド

機能：

指伝話文字盤で発話した後に呼び出すことで、発話した内容に応じて何かアクションを実行することができる仕組みです。

解説：

前出の「指伝話文字盤アクション」は、アクションをダイアログで表示して選択して実行する仕組みですが、この方式は文字盤に打った内容に応じて処理を行う仕組みです。コマンドは自分で決めて作ることができます。例えば、先頭に空白を入れて数字をつけた場合は、その数字以降の文字をメッセージで特定の宛先に送るといった操作です。

指伝話文字盤は発話した文章をクリップボードに保存する機能があり、一度発話した後にこのショートカットを呼び出すことで、ショートカットの中でその内容を使ってアクション（処理）を行っています。

話す言葉の先頭や最後にスペースを入れた場合は、その内容を特定の人にメッセージで送信するという機能も実現することができます。



指伝話文字盤の会話をメモに保存

機能：

指伝話文字盤で発話した後に呼び出すことで、発話した内容をメモアプリに保存します。

解説：

メモには、「日付+文字盤」というタイトルで保存されます。同じ日に保存した内容は同じメモに追加されていきます。



ここまでの解説：

上記のサンプルは、ショートカットの仕組みを知る過程を考えて作っていますので、ショートカットを勉強する際の参考にしてください。

最初から複雑な機能を提供するのではなく、最初は1箇所にメッセージを送ることができるようにし、次に他の人にも送りたいねという気持ちを盛り上げてから宛先を選択できるようにする、それができたら他のアプリを呼び出すようにしてみるのも良いでしょう。

ここにあるサンプルをそのまま使うだけでなく、組み合わせでショートカットを工夫することにより、使う人にとってはシンプルな操作で文字盤を中心としてできることを増やしていくことができます。

指伝話文字盤はスイッチ操作の場合、スイッチコントロールを使わない方法もあります。スイッチコントロールの操作を覚えなくて良いのがポイントです。一方で、スイッチコントロールが使えるようになると、ベッド操作もできるなど、他のアプリを使いたくなってきます。

徐々にできることを増やしていく過程もまたコミュニケーションですので、楽しみながら使っていただけると幸いです。

SCオンで指伝話メモリ

機能：

スイッチコントロールをオンにして指伝話メモリを開きます。

解説：

指伝話文字盤は、スイッチコントロールを使わずにスイッチ操作することができる機能があります。指伝話文字盤だけをスイッチ操作する場合には問題ありませんが、他のアプリもスイッチで操作する場合にはスイッチコントロールのガイドカーソルで使うのがシンプルな使い方となります。ただ、ガイドカーソルでは文字盤の選択候補の読み上げは行われません。一方で、スイッチコントロールを項目モードで使用する場合には、指伝話文字盤の操作は不向きです。

そこで、スイッチコントロールで使用している指伝話メモリから指伝話文字盤を呼び出す際に、スイッチコントロールをオフにしてから呼び出して使用し、指伝話文字盤から指伝話メモリを呼び出す際にスイッチコントロールをオンにしてから呼び出す、という使い方をすることができます。

なお、指伝話メモリからスイッチコントロールをオフにして指伝話文字盤を呼び出すためのショートカット「SCオフで指伝話メモリ」は別途サンプルとして提供されていますので、合わせてご利用ください。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=SCオンで指伝話メモリ`



SCオフで指伝話文字盤

機能：

スイッチコントロールをオフにして指伝話文字盤を開きます。

解説：

これは、指伝話メモリで設定するアクションで呼び出して使用し、前述の「SCオンで指伝話メモリ」と一緒に使用するためのものです。

このショートカットの先頭行で、「スイッチコントロールを切り替える」という処理をしています。本来であれば「スイッチコントロールをオフにする」とすべきところです。しかし、このショートカット作成時点（この説明書を執筆時点でも）iPadOSの問題があり、ショートカットの中でスイッチコントロールをオフにする機能が正しく動作しません。そこで、ショートカットがオンになっている状態で使うことを前提にしているので、切り替える処理で対応をしています。

呼び出し方：

`shortcuts://run-shortcut?name=SCオフで指伝話文字盤`



指伝話文字盤のURL Scheme

URL Schemeは、特定のURLを使ってアプリを呼び出す仕組みで、指伝話文字盤にもその機能が用意されています。

呼び出し形式

yubidenwamojiban://アクション?パラメータ

アクションとパラメータ

アクション	動作	パラメータ
new	新たに文字を入力する	text (必須)
append	既に入力済の文字の最後に、文字を付け足す	text (必須)
clear	既に入力済の文字をすべて消す	
delete	既に入力済の文字から、最後の文字を1文字消す	
speak	既に入力済の文字を話す	
copy	既に入力済の文字をクリップボードにコピーする	

呼び出し例

新たに「アイスクリームを食べたい」と入力する：

<yubidenwamojiban://new?text=アイスクリームを食べたい>

入力済の文字の最後に疑問符を付け足す：

<yubidenwamojiban://append?text=?>

使用例：指伝話文字盤簡易定型文

機能：

リストから文字列を選択すると、それを指伝話文字盤に表示するショートカットを作成し、指伝話文字盤のURL呼び出しからそのショートカットを呼び出すようにすれば、定型文を選択して入力することができます。

ショートカット「指伝話文字盤簡易定型文」をQRコードからダウンロードすることができます。



指伝話文字盤のURL呼び出しには、次のように指定してください：

<shortcuts://run-shortcut?name=指伝話文字盤簡易定型文>



アクションボタンを押して表示した一覧から定型文を選択すると、指伝話文字盤に入力される

使用例：指伝話文字盤奥の細道

機能：

指伝話文字盤に、奥の細道の俳句（50句）の上五（初めの5音）を入力してアクションボタンを押すと、俳句全体を指伝話文字盤に表示します。

文字入力の練習のサンプルの一つです。

ショートカット「指伝話文字盤奥の細道」をQRコードからダウンロードすることができます。



指伝話文字盤のURL呼び出しには、次のように指定してください：

shortcuts://run-shortcut?name=指伝話文字盤奥の細道



上五を入力した後に、アクションボタンを押すと、俳句全体に変換される

使用例：指伝話文字盤変換

機能：

指伝話文字盤に入力した文字をルールに基づいて変換します。文字盤にない文字を打ちたい時や、省略した入力をした時に活用できる方法です。

下のスクリーンショットの例では、「11」は「!」、「12」は「?」、「13」は「❤️」、「00」は改行に変換される設定になっています。

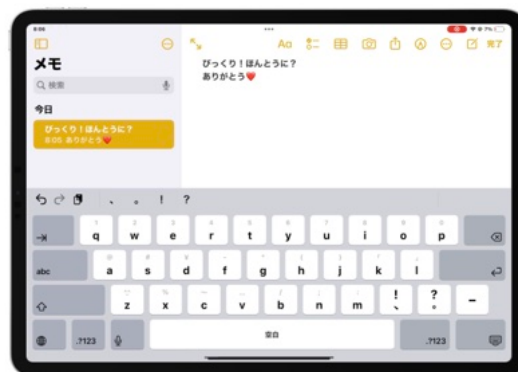
ショートカット「指伝話文字盤変換」をQRコードからダウンロードすることができます。このショートカットの中で、何の文字列を何に変換するかを指定します。

指伝話文字盤のURL呼び出しには、次のように指定してください：

`shortcuts://run-shortcut?name=指伝話文字盤変換`



文字入力した後に、アクションボタンを押すと、文字が変換される



一度文字盤で話すと、他のアプリでペーストできる